

(別紙1-1)

令和元年 6月 27日

二本松市議会議長 様

会派名 真誠会

代表者名 平塚 與志一



## 視察研修報告書

当会派において、下記により視察研修に参加しますので報告いたします。

### 記

1 期間 令和 元年 5月 9日 (木) ~ 5月 10日 (金)

2 参加者 ① 平塚與志一 ..... ② 佐久間好夫 .....

③ 佐藤有 ..... ④ 堀籠新一 .....

⑤ 坂本和広 ..... ⑥ .....

3 視察地及び視察内容

別紙のとおり



# 研修報告書

会派	真誠会
氏名	平塚與志一

○ 月日 令和元年 5月 9日 (～10日) 2日間

○ 場所 明治大学アカデミーコモン棟

○ 内容 2019年度 日本自治創造学会 研究大会  
新時代到来! ～地方はどう生き残るか～

○ プログラム

## ● 講演

自立へのシナリオを語る

穂坂 邦夫 (日本自治創造学会理事長・地方自立政策研究所理事長)

真の地方創生と地方自治

片山 善博 (早稲田大学公共経営大学院教授・元総務大臣)

## ● 事例発表

地域ビジネスを成功させる知恵と実践

竹井 智宏 (株)MAKOTO代表取締役)

外国人対策

谷畑 英吾 (湘南市長)

地方はチャンス～1粒1000円のライチの奇跡～

齋藤 潤一 ((財)こゆ地域づくり推進機構代表理事)

## ● 講演

ゆでガエルにならないために

齋藤 健 (前農林水産大臣・衆議院議員)

SDGsと地域循環共生圏

中井 徳太郎 (環境省総合環境政策統括官)

日本の課題と可能性

村上 由美子 (OECD東京センター所長)

スポーツが持つ力と地域活性化

藤江 陽子 (スポーツ庁審議官)

日本が売られる～自治体は最後の砦～

堤 未果 (国際ジャーナリスト)

### ● パネルディスカッション

新時代到来！～地方はどう生き残るか～

問題提起 金井 利之 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)

パネリスト 牛山 久仁彦 (明治大学政治経済学部教授)

パネリスト 土居 丈朗 (慶応義塾大学経済学部教授)

パネリスト 山下 祐介 (首都大学東京人文科学研究科教授)

コーディネーター 穂坂 邦夫 (NPO法人地方自立政策研究所理事長)

### ○ 視察・研修の感想

今回、明治大学で開催された日本自治創造学会の研究大会にて特に印象に残った講演として、片山元総務大臣の講演がありました。

内容として、国の景気対策等に依存した公共事業の補助金活用を進めた結果、地方の借金が増えてしまった。国の施策を信用せず自分達で考える必要がある。また、地方議会としては住民意思を反映した決議を行うために、市民の意思公聴を議会の決議前に届け出制で行い、関係当事者の生の意見を聞いたうえで審議している議会もある。(名古屋・犬山市)

人口減少で地域の将来が見えないなかでも、地域に住み続ける皆でその地域の将来を決めていくために自分達で考え、皆の意見を広く聞き、より多くの方々の納得の上で、物事を決めていき、住民参加を広く進めていく結束が必要と実感しました。

### ○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

日本の経済発展に伴い大量消費が当然の世の中となってしまうが、少しずつでも、地域内での経済循環に戻していくことにより、財政基盤安定化を図り、未来の二本松市民が安心して住み続けることができる二本松市とするため、市民参加の

市政推進による納得度の高い市政運営の必要性を感じました。  
無いものねだりをするばかりの物欲を皆で少しずつ我慢して、人口減少を食い止める施策への取り組みに予算配分を傾けていくことが大事だと実感しました。

(別紙1-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 真誠会  
氏 名 佐久間 好 夫

- 月 日 令和元年5月9日～10日
- 場 所 東京都 明治大学アカデミーコモン棟 アカデミーホール
- 内 容 日本自治創造学会 研修大会 新時代到来 地方はどう生き残るか
- 視察・研修の感想

5月9日

・ 講演 「自立へのシナリオを語る」

穂坂邦夫 (日本自治創造学会理事長)

片山善博 (真の地方創生と地方自治)

・ 事例発表 「地域ビジネスを成功させる知恵と実践」

「地方自治はチャンス～1粒1千円のライチの奇跡」

「外国人対策」

※ これら三つの表題を事例として三名がパネル等により説明し、地域で市民が幸せに生きられる社会をつくる、サービス業・農業・伝統工芸や、特に農産物も若干の付加価値を加えての販売また、外国人を受け入れているが、将来どのようなようになるか・・・語学力の不十分による通訳が必要、外国人児童生徒等の市民への生活環境の違いによる、影響等が問題化している。この問題等についても具体的な取り組みや互いの文化・人権を尊重し共生の成果が発表された。

・ 講演 「少子高齢化を乗り切る取り組みについて」

斎藤 健 (前農林水産大臣・衆議員議員)

農林水産業・地域の活力創造プラン及び、国家戦略特区における企業の農地所有と外国人労働力の受け入れについて話された。

※ 講演等の内容は大変勉強となりました。

5月10日

- ・ 講演として「SDGsと地域循環共生圏」仲井徳太郎 (環境省統括官)
- 「日本の課題と可能性」村上由美子 (OECD東京センター所長)

「スポーツが持つ力と地域活性化」藤江陽子（スポーツ省審議官）

「日本が売られる～自治体最後の砦～」堤 未果（国際ジャーナリスト）

4名による講演され、我が国の抱える環境・経済・社会の課題や地域の特性、地域資源に応じ最適な規模で地域資源は循環することや、再生エネルギーの地域別導入ポテンシャルが存在し、エネルギーの消費による需要密度での都市との交流による資金の流れなど。

また、日本が売られるでは、水ビジネス等で土地を海外に売却され資源が放出してしまう事や、外国企業の傘下企業となっている、こうした状況から脱出を図らなければならない。

最後にパネルディスカッションが行われ新時代到来による地方はどう生きるかが話された。

2日間にわたる講演や事例報告を聞き、日々変わる時代の取組み等、本市議会でも実現可能な事例もあり参考にしたい。

また、今回の事例発表等議会と本市の規模が異なる事から同程度の市議会規模も発表していただきたかった

(別紙1-2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 真 誠 会  
氏 名 佐 藤 有

○ 月 日 平成元年 5 月 9 日 (~ 10 日)

○ 場 所 東京日本自治創造学会 明治大学伊予第一ホール

○ 内 容 新時代到来!  
地方はどう生き残るか

○ 視察・研修の感想

目立へのレトリックを本学会理事長が、その社会環境の変化について「方向性の誤りは、基礎的自治体の危機」と題して熱弁され、都市一極集中と地方の過疎化、国家財政の変化、医療福祉の増大等など、更には、税金の過剰的減少による地方財政への影響など大変重要であり、有意義な研修でありました。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

事例発表、講演等 浸山のX-2-1であったが、現実的には、ありに有利な議論であり、若干、おぼろげな気持ではあったが、地方にとり、耕作放棄地早急であり、それらを参考に今更にもあるのか、そのためのノウハウ、精神とゆうか、度胸か何々？ 参考にあったが、踏切れぬ事例であった、それ、その地域の特性もあり、意味のある市政に反映できると思った次第でありました。

# 視察研修会報告書

真誠会 堀籠 新一

研修日 令和元年5月9日(木)～10日(金)2日間

研修先 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学アカデミーコモン棟3階  
アカデミーホール

研修内容 第11回2019年度日本自治創造学会研究大会  
内容は別紙資料にて

## 研修の感想

今回の研修会は多くの講師の皆様が日本の人口減少社会により、地方自治体の危惧されることの問題点の内容でありました。また、国の指導により現在進めている人口減少対策や地方自治体の生き残り対策も良くなっていない現状を、さまざまな分野からの問題を提起しながら、これからの地方自治体はどうあるべきかを事例やアドバイス、ヒントをいただきました。人口減少・少子高齢化では日本の高齢化は世界のトップを走っていますが、それ以上に深刻な問題は少子化であるとおもいます、高齢者は増える一方だが、それを支える次世代が再生産されていない訳である。国は2014年から始まった「地方創生」という名の人口減少対策にも関わらず、ますます少子化が進んでいる様相であると思います。失敗策か？

## 研修の成果、市政への反映等

※研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

我が日本は今、人口減少と少子・高齢化により過疎化が進んでいると思う、その過疎化対策として新たに広域圏の設定や第二の市町村合併などの話が現実化していると思います。しかし国は私達地方の地域力が基盤であると思いますので、地方が元気を取り戻さなければ国は衰退するので、社会環境の大変化を我が二本松市自身も最大のチャンスとしてとらえ、自立できる新たな二本松市を創なければならないと思います。団塊の世代が頂点となる2025年問題や1500万人の働き手が消える2040年問題は労働力の減少と財政破綻になりますので、今から50年先100年先を見据えての対策は喫緊の課題であると思います。あらゆる施策と知恵を発揮し、市と議会と連携を密にし自立する新たな自治体を目指さなければならないと感じました。



(別紙1-2)

## 研 修 報 告 書

会 派 真誠会

氏 名 坂本和広

○ 月 日 令和 元年 5月 9日 (～ 10日)

○ 場 所 明治大学アカデミーコモン棟

○ 内 容 2019年度 日本自治創造学会 研究大会  
新時代到来！ ～地方はどう生き残るか～

### ○ 視察・研修の感想

今回、明治大学で開催された日本自治創造学会の研究大会にて特に印象に残った講演として、片山元総務大臣の講演がありました。

内容として、国の景気対策等に依存した公共事業の補助金活用を進めた結果、地方の借金が増えてしまった。国の施策を信用せず自分達で考える必要がある。また、地方議会としては住民意思を反映した決議を行うために、市民の意見公聴を議会の決議前に届け出制で行い、関係当事者の生の意見を聞いたうえで審議している議会もある。(名古屋市・犬山市)

人口減少で地域の将来が見えないなかでも、地域に住み続ける皆でその地域の将来を決めていくために自分達で考え、皆の意見を広く聞き、より多くの方々の納得の上で、物事を決めていき、住民参加を広く進めていく結束が必要と実感しました。

### ○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

日本の経済発展に伴い大量消費が当然の世の中となってしまうが、少しずつでも、地域内での経済循環に戻していくことにより、財政基盤安定化を図り、未来の二本松市民が安心して住み続けることができる二本松市とするため、市民参加の市政推進による納得度の高い市政運営の必要性を感じました。

無いものねだりをするばかりの物欲を皆で少しずつ我慢して、人口減少を食い止める施策への取り組みに予算配分を傾けていくことが大事だと実感しました。

## 第11回日本自治創造学会

# 研究大会 プログラム

### ■ 第1日目 5月9日(木)

12:00	開場・受付
13:00～13:10	大会挨拶 穂坂 邦夫 ((財)日本自治創造学会理事長)
13:10～13:40	講演 <b>自立へのシナリオを語る</b> 穂坂 邦夫 (日本自治創造学会理事長・地方自立政策研究所理事長)
13:40～14:30	講演 <b>真の地方創生と地方自治</b> 片山 善博 (早稲田大学公共経営大学院教授・元総務大臣)
14:30～14:45	質疑
14:45～15:00	休憩
15:00～16:30	事例発表 <b>「地域ビジネスを成功させる知恵と実践」</b> 竹井 智宏 ((株)MAKOTO代表取締役) <b>「地方はチャンス～1粒1000円のライチの奇跡～」</b> 齋藤 潤一 ((財)こゆ地域づくり推進機構代表理事) <b>「外国人対策」</b> 谷畑 英吾 (湖南市長)
16:30～16:40	質疑
16:40～16:50	休憩
16:50～17:30	講演 <b>少子高齢化を乗り切る取り組み</b> <b>～ゆでガエルにならないために～</b> 齋藤 健 (前農林水産大臣・衆議院議員)
17:40～20:00	<b>改革発表会兼交流会</b> ～改革大発信・ベスト1の選出・親睦・交流～

## ■ 第2日目 5月10日(金)

9:30～10:00	講演 <b>SDGsと地域循環共生圏</b> 中井 徳太郎 (環境省総合環境政策統括官)
10:00～10:10	質疑
10:10～10:20	休憩
10:20～10:50	講演 <b>日本の課題と可能性</b> 村上 由美子 (OECD東京センター所長)
10:50～11:00	質疑
11:00～11:30	講演 <b>スポーツが持つ力と地域活性化</b> 藤江 陽子 (スポーツ庁審議官)
11:30～11:40	質疑
11:40～13:00	昼 食 [12:35～(財)日本自治創造学会総会]
13:00～13:40	講演 <b>日本が売られる～自治体は最後の砦～</b> 堤 未果 (国際ジャーナリスト)
13:40～15:20	パネルディスカッション <b>新時代到来!～地方はどう生き残るか～</b> 問題提起 金井 利之 (東京大学大学院法学政治学研究科教授) パネリスト 牛山 久仁彦 (明治大学政治経済学部教授) 土居 文朗 (慶應義塾大学経済学部教授) 山下 祐介 (首都大学東京人文科学研究科教授) コーディネーター 穂坂 邦夫 (NPO法人地方自立政策研究所理事長)
15:20～15:25	閉会挨拶 牛山 久仁彦 ((財)日本自治創造学会理事・明治大学教授)